

流行ニュース：

< デング熱、インドネシア >

2004年2月26日、インドネシア厚生省は、2004年1月1日からジャワ島全域およびスマトラ島の2州において発生した死亡例260例（致命率1.8%）を含む14,626例のデング熱を報告している。保健当局は流行の原因となっている特定のウイルス株を決定するため、現在分析を進めている。またインドネシアの厚生省は、このウイルスの媒介蚊を駆除するため、集中的に殺虫剤の噴霧を始めている。

< ニパウイルス様のウイルス、バングラディッシュ >

2004年2月26日、WHOは死亡例17例を含む22例のニパウイルス様ウイルス感染に関する報告を受けた。これらのうち11例はウイルス学的に確認され、追加例51例は現在検査中である。脳炎に対しては、臨床管理のガイドラインや病院を基盤とした監視が発達しつつある。生態学的、血清疫学的及び患者対照研究は近く完了する。

< 世界におけるインフルエンザ >

* 2003年9月から2004年1月：

2003年9月から2004年1月の間、北アメリカや西ヨーロッパにおけるインフルエンザの活動開始時期が早まり、過去3年に比べてより深刻なものとなった。この期間、インフルエンザ活動の広がりには明らかな地理的特性を示し、西部において発生し、東方へと広がりを見せた。また、2003年12月から2004年2月17日のヒトにおける27例のインフルエンザA(H5N1)型感染は、とベトナムやタイの家畜における高病原性鳥インフルエンザA(H5N1)型の流行と関連性が認められた。今までのところ、ヒトからヒトへの伝染の明らかな証拠はない。2003年9月から2004年1月にかけて、合計66の国や地域がインフルエンザの活動について報告している。アフリカ(5)、アメリカ大陸(11)、アジア(13)、ヨーロッパ(33)、オセアニア(4)。

表1：ウイルス分離、検出により確認された世界のインフルエンザの範囲と型、2003年9月 - 2004年1月（WER参照）

今週の話題：

< 鳥インフルエンザA(H5N1)型 - 2004年3月2日現在のアジアにおける状況(家畜)：長期にわたる対応および過去における流行との比較の必要性 >

タイ、バンコクで行われた緊急会議の期間、国連食糧農業機関(Food and Agriculture Organization of the United Nations、FAO)、国際獣疫事務局(World Organization for Animal Health、OIE)およびWHOの役員が、アジアの家畜における現在のインフルエンザA(H5N1)型の流行に認める他に類を見ない特徴、特に、その地理的分布や、拡大の程度、先例のない激しさについて注意を促している。

また、WHOは、人々の健康とこれらの流行の間に認められる密接な関係について説明してきた。2003年末まで、高病原性鳥インフルエンザ(highly pathogenic avian influenza、HPAI)は稀な疾患と考えられてきた。1959年から世界中でたった21例の流行しか報告されておらず、その大部分はヨーロッパやアメリカ大陸で発生した。しかし、2003年12月中旬から、アジアの8ヶ国においてH5N1型によるHPAIの流行が確認された。

表1：世界における高病原性鳥インフルエンザの過去の流行

年	国/地域	感染した家畜	型
1959	スコットランド	ニワトリ	H5N1
1963	英国	七面鳥	H7N3
1966	オンタリオ(カナダ)	七面鳥	H5N9
1976	ビクトリア(オーストラリア)	ニワトリ	H7N7
1979	ドイツ	ニワトリ	H7N7
1979	英国	七面鳥	H7N7
1983-1985	ペンシルバニア(アメリカ合衆国)	ニワトリ、七面鳥	H5N2
1983	アイルランド	七面鳥	H5N8
1985	ビクトリア(オーストラリア)	ニワトリ	H7N7
1991	英国	七面鳥	H5N1
1992	ビクトリア(オーストラリア)	ニワトリ	H7N3
1994	クイーンズランド(オーストラリア)	ニワトリ	H7N3
1994-1995	メキシコ	ニワトリ	H5N2
1994	パキスタン	ニワトリ	H7N3
1997	ニューサウスウェールズ(オーストラリア)	ニワトリ	H7N4
1997	香港	ニワトリ	H5N1
1997	イタリア	ニワトリ	H5N2
1999-2000	イタリア	七面鳥	H7N1
2002	香港	ニワトリ	H5N1
2002	チリ	ニワトリ	H7N3
2003	オランダ	ニワトリ	H7N7

現在、アジアにおける HPAI の流行で認められる独特な特徴は以下の通りである。

- 家禽の裏庭にある農場への集中：流行を経験した数カ国においては、家禽の 80% は家禽が自由に歩き回り、他の家畜やヒトと近接に飼育される田舎の小さな農場や裏庭の保有地で生産されている。この状況が、過去の流行を制圧するために欠かせなかった厳格な制圧方法の実施をきわめて困難にしている。
- 家禽生産の経済的な重要性：家禽生産は感染を受けた国々の経済や食糧供給に大きく影響し、農業部門は産業や農業を営む人たちの生活における損失を最小限に抑えるという問題に直面する。その地域では多くの人々が家禽に大きく依存して生活しているので、適当な殺処分を実施することはおそらく難しい。
- 制圧経験の不足：その地域では、大部分の国において HPAI を初めて経験するため、その国に特化した最も適当な制圧方法を進める国家水準および国際水準がほとんど存在しない。
- 財源不足：流行がかなり広範囲に拡大した国の中には、十分な基本的施設や農業に関わる人々への補償に当たる財源が不足している国がある。また、流行を発表している国においては、流行拡大を検出する監視や感染がわかっている動物の殺処分を行っていない国もある。
- 国際的拡大の規模：多くの隣国が感染を受けた場合、他国の不十分な制圧によって一国の利益が損なわれないよう、広い地域を網羅する計画が必要となるだろう。

以上の独特な様相により、迅速な制圧や長期間にわたる再発防止の達成がかなり困難になっている。

現在の流行を制圧するため、FAO、OIE、WHO が殺処分を推奨しているため、この方法が依然として制圧活動の第一線で行われている。また、野鳥は低病原性ウイルスを家畜の群れに広める役割を担う可能性があり、数ヶ月間で、ウイルスはその群れにおいて低病原性型から高病原性型に変異しうる。しかし、野鳥が HPAI H5N1 型流行の原因になるという証拠はないので、野鳥を殺処分するべきではない。

* 過去の流行(1959 - 2003)における調査：

HPAI の流行は、制圧に適した状態であっても、制圧が非常に困難になる可能性がある。

- ・1983 年のペンシルベニア(アメリカ合衆国)における流行は制圧に 2 年かかった。1700 万羽のトリが 6200 万 US ドルをかけて処分され、間接的費用は 2 億 5000 万 US ドル以上と推定される。
- ・2003 年のオランダにおける流行はベルギーやドイツにも拡大した。オランダにおいては、国内の家禽の 4 分の 1 にあたる 3000 万羽以上のトリが処分され、ベルギーやドイツにおいてもトリの処分が行われた。また、オランダにおいては 89 人のヒトに感染し、そのうち 1 人(獣医)が死亡した。
- ・1999 年から 2000 年にかけてイタリアで起こった流行は、140 万羽のトリを処分する結果に至った。家禽密度が非常に高い地域で発生したため、制圧は困難を極めた。飼育者に対する補償は 6300 万 US ドルに達し、家禽や関連産業に対する出費は 6 億 2000 万 US ドルと推定される。最後の流行が終結した 4 ヶ月後、そのウイルスは低病原性型に戻り、更なる 52 例の流行の原因となった。
- ・1995 年、メキシコにおいて最後の HPAI が流行したが、原因となった H5N2 型ウイルスは、懸命な努力にもかかわらず、その国から完全に排除されなかった。同様に、パキスタンにおいて続行されたワクチン接種政策は原因となったウイルスの根絶という結果をもたらすことはなかった。

家禽と野鳥、特にカモや他の水鳥との接触を避けることは、低病原性ウイルスが家畜の群れへ拡大することを防ぐ手助けとなりうる。アジアにおける最近起こった流行が野生の渡り鳥と関連しているという証拠はないが、これらの流行は、放牧された群れと水源を共有する野鳥の接触が関連しているとされ、汚染された水の供給は、水鳥がウイルスを伝播するとともに効果的な方法だと考えられている。

いくつかの最も大きな流行(ペンシルベニア、メキシコ、イタリア)は、当初、家禽の軽い病気から始まった。そのウイルスが家禽の間を継続的に循環するようになると、最終的に、6 ヶ月から 9 ヶ月以内に死亡率 100% に達する高病原性型ウイルスに変異していた。さらに、この流行における低病原性ウイルスの存在は高病原性型ウイルスの診断を複雑にした。

流行ニュースの続報：＜インフルエンザ＞

オーストリア¹：A(H3N2)型の流行継続。カナダ¹：ケベック州で流行継続。インフルエンザ様疾患(ILI)の受診率は 1000 分の 32 例。クロアチア¹：A(H3N2)型の減少。ドイツ¹：A(H3N2)型の減少。香港¹：流行減少。イタリア²：中程度の流行。日本¹：ILI 受診率減少。ロシア連邦¹：流行の減少。スロバキア¹：ILI 受診率がピーク。スイス¹：流行の減少。アメリカ合衆国¹：流行は低度。その他の報告：第 7-8 週目に低度の流行が見られた国はベルギー²、ブラジル²、デンマーク¹、フランス¹、ギリシャ¹、アイスランド¹、イスラエル³、マダガスカル¹、ノルウェー¹、ポーランド¹、ルーマニア¹、セルビアとモンテネグロ²、スウェーデン¹、英国¹、アルデンチン¹、ポルトガル¹であり、スペイン¹では流行は見られなかった。参照：¹No. 8, 2004, pp. 83-84、²No. 6, 2004, pp. 63-64、³No. 4, 2004, pp. 39-40